

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもの広場四日市 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2025年11月28日		2025年12月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 39
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		2026年2月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月26日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「心と体を育む」多角的な活動プログラム	近隣の自然環境を活かした戸外活動による身体づくりや、季節の行事や集団・室内活動を行い、お子さまの興味関心を多方面から引き出し、社会性と情緒の安定を育む環境を整えています。	戸外活動のねらいを可視化し、日々の活動に込めた意味や、お子さまの心の動きを丁寧にお伝えし、保護者と職員が共に成長を喜び合い、確信し合える関係性を築きます。
2	個々の変化を見守る「伴走型」の支援	利用者一人ひとりの特性や発達段階に寄り添い、日々の小さな成長や変化を大切に受け止める支援を心がけています。画一的なマニュアル対応ではなく、その時々のお子さまの状態に合わせた「個」を置き去りにしない関わりを継続しています。	職員間の連携を密にし、誰が対応してもお子さまの状態に合わせた一貫性のある支援が行える体制を整えます。また、有資格者を中心とした採用と、特性に合わせた柔軟なスタッフ配置を行い、一人ひとりに寄り添う「置き去りにしない支援」の質を高めます。
3	保護者様一人ひとりに合わせた丁寧な関わり	お子さまへの支援に加え、保護者様との対話を重視しています。年2回の面談や日々の雑談を通じた専門的な助言に加え、活動の様子を写真なども交えて分かりやすく共有しています。お子さまの成長を「顔の見えるサポート」で伝え続けることで、保護者様と歩調を合わせた良好な関係を築いています。	面談や日々の雑談の質をさらに高め、保護者様が抱える小さな悩みにも寄り添い、「いつでも相談できる」という安心感を守りながら、ご家庭と足並みを揃えた支援を継続します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在の受け入れキャパシティにおける構造的な課題	職員の配置基準は遵守しておりますが、現状の施設スペースや人員数では対応しきれないニーズ(個別送迎や長時間の預かり等)が増えており、今の規模がサービス提供の限界値となっています。	安全な支援体制を維持するため、現在は規模を限定しておりますが、その分、限られた時間内での支援の質を高めることに注力いたします。また、当事業所のみで解決できないニーズについては、相談支援専門員等と連携し、地域全体でお子さまとご家族を支える方法を共に模索してまいります。
2	設備の未整備による、安全確保への人的負荷の増大	施設内のバリアフリー環境が不十分のため、移動時の安全確保においてスタッフの直接的な介助に依存せざるを得ない状況にあります。ハード面の弱みをソフト(人員)で補っているため、支援の自由度や広がり制限する要因となっています。	段差への目印や手すりの明示により、お子さま自身が危険を察知しやすくする工夫を行います。併せて、家具配置の調整で安全な動線を確保し、過度な介助に頼らずとも自立して過ごせる環境を整えます。
3	ご家族への多角的なケアと、地域との繋がりの不足	個別支援や相談を最優先に進めてきた経緯もあり、これまでは「家族全体」や「地域」への広がりを求めるニーズが顕在化しにくい状況にありました。そのため、保護者同士の交流(父母会)やきょうだい児への配慮、地域交流などは未着手となっております。支援が事業所内の個別対応に完結しがちな点が課題です。	父母会やきょうだい児支援、地域交流については、決まった形での開催はしていませんが、「こんなことができたら」という思いがあれば、面談などの際にお聞かせください。お悩みやご要望に寄り添いながら、当事業所にできることを模索してまいります。